

11月28日火曜



午後10時00分～午後10時45分



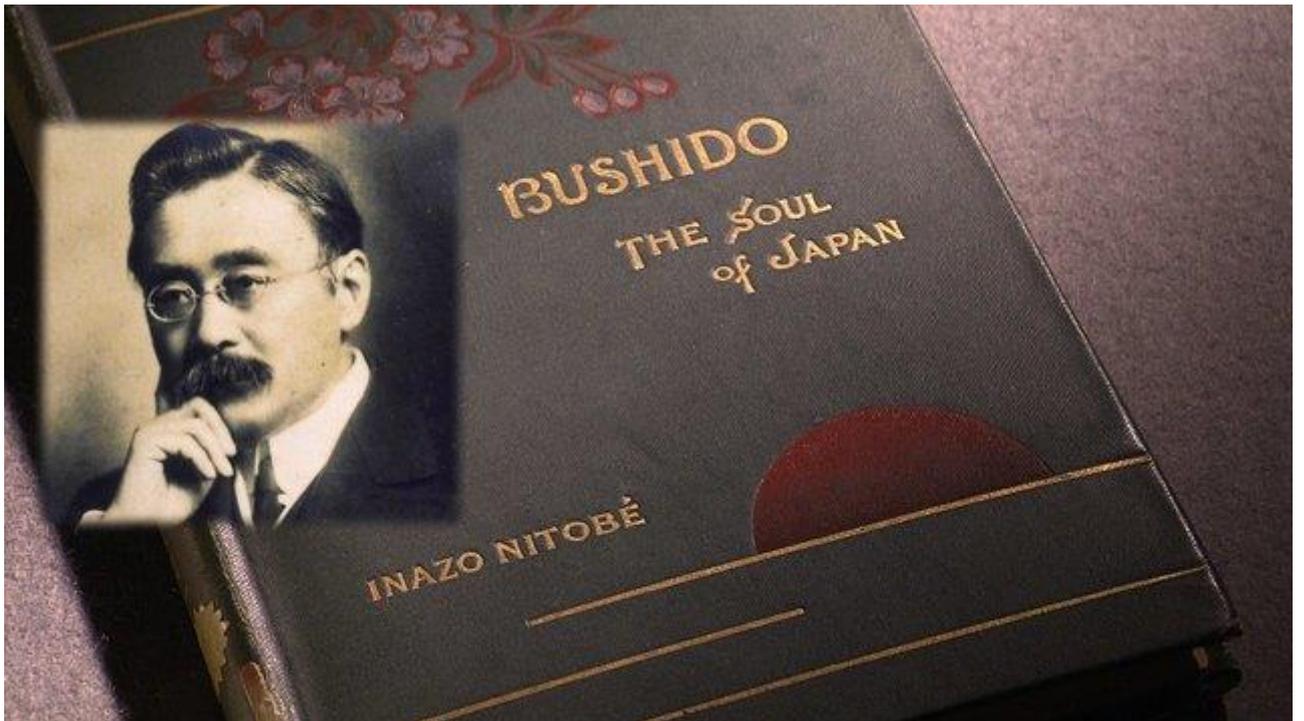
▽不寛容社会を生きる道しるべ 新渡戸稲造 教養とは何か

旧 5 千円札に描かれたものの日本人の認知度が低い新渡戸稲造。しかし教育者・国際人など数多くの顔を持つ新渡戸の考えには「不寛容」と言われる現代によく効く知恵が満載。明治 39 年、第一高等学校の校長に就任した新渡戸は、開口一番「社交性を身につけよ！」と訓示。学生たちから猛反発を受ける。新渡戸は、現代にも通底する「教養のあり方」に異を唱えたのだ。「一部のエリート」と「大衆」が分断している国家は大国ではないという考えのもと、「特権階級意識」に警鐘を鳴らし、一般市民には自己啓発をいざなう。新渡戸が「納豆売りの女性」から気付かされたという真の教養とはどういうモノなのか？

12月5日火曜



午後10時00分～午後10時45分



[▽不寛容社会を生きる道しるべ 新渡戸稲造 真の武士道](#)

明治時代、日本人の内面を「武士道」という書籍で海外に紹介した新渡戸稲造。国際連盟事務次長として国家間の対立も解決した。相互理解をいざなう「武士道」の知恵とは...？

「ハラキリ（切腹）」など海外から野蛮なイメージを持たれていた日本。それをぬぐい去るために書いたのが「武士道」だった。新渡戸が唱えた武士道は、「死」を強調するものとは異なり、「異文化理解の架け橋」にもなるモノだった。「武士道」の発行によって海外で有名になった新渡戸は、国際連盟の初代事務次長に就任。難解極まる国際問題を武士道精神で解決した。不寛容と言われる現代にも応用できる「武士道」の知恵を見つめる。